

# 山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、  
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。  
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 「テッド」の宣伝で雑誌の取材を受けた時に撮影してもらったもの。宣伝プロデューサーとしてTVや雑誌等で自分の言葉で直接視聴者に訴える場面も。そんな時は、こうしてテッド同席で華を添えてもらい取材を受けた。

2 海外のスターが来日する際は、このようにレッドカーペットを敷いた会場でイベントを行う。プロデューサーの仕事はタレントのケアやイベントの進行管理、取材陣の対応等、とにかく忙しい体力勝負の仕事でもある。

3 卒論のために「新庄祭り」の調査に取り組んだ大学4年の夏。とはいえ、祭り当日は街に繰り出してはしゃいでしまった。向かって左が佐藤さん、真ん中が同じく新庄市出身のご友人。彼は小さい頃から囃子として祭りに参加していた。

## 紆余曲折、少しずつ夢に近づいて今がある。 「遠い世界」を引き寄せ、憧れのプロデューサーに。

佐藤大典 東宝東和株式会社 宣伝プロデューサー

小学生の頃、映画『ジュラシック・パーク』に衝撃を受け、作品を生み出したスタッフに対して尊敬の念さえ抱いたという佐藤大典さん。今、その『ジュラシック・パーク』を生み出したユニバーサル・ピクチャーズのスタッフと一緒に仕事をしている。洋画の配給会社の宣伝プロデューサーとしてハリウッドで生まれた作品が日本でヒットする可能性を見極め、タイトル(邦題)やキャッチコピーの選定、ポスタービジュアル、予告編・CM制作等の宣伝戦略・予算を統括する、言わば大ヒット映画の仕掛け人。各分野のプロフェッショナルを集め、彼らの能力を最大限引き出すための環境を整えるオールマイティな資質が求められる仕事だ。

そんな佐藤さんは、本学人文学部で文化人類学を専攻。ナスカ地上絵の研究で知ら

れる坂井正人教授の講義をきっかけに冒険映画にも似たロマンを人類学に感じ、純粹な知識欲に目覚めたという。授業料免除資格がほしいという思いもあって勉学に励み、その傍らアルバイトにも精を出した。コンビニ、デパート、銀行、映画館等4年間で20種類近くのアルバイトを経験し、中でも冬期間の蔵王温泉スキー場での住み込みアルバイトではさまざまな面で大いに鍛えられ、コミュニケーション能力を高めることもできたと感じている。さらに、お祭りごとが大好きな佐藤さんは地元の新庄祭りや山形国際ドキュメンタリー映画祭にスタッフとして参加し、観客サイドでは感じられないスタッフならではの達成感、一体感を体験。新庄祭りは卒論のテーマとしても取り上げている。こうした学外体験も含め、大学でたびたび経験した

大勢の前でのプレゼンテーション、いろいろな人との議論等、それらすべてが人と話をする機会の多い今の仕事に役立っているという。

去年は、『テッド』、『ワイルド・スピード EURO MISSION』という映画に関わり、自分の知識やアイデアが世の中に影響を与える達成感を味わうこともできた。佐藤さんは言う「遠い世界」と思われている世界は、実はそんなに遠くない。心から惹かれる世界に出会った時は「遠い世界」の話と諦めず、その世界で活躍する自分を妄想して、その自分に向けて行動してみたい。たとえ挫折しても微調整すればいくりに樂觀的に考えて、恐れず色々な事にチャレンジしてもらいたい」と。就職活動の難航や2回の転職、失敗や挫折を乗り越えて夢をかなえた先輩の言葉だけに、重みと説得力が違う。

想像の成果